

<p>三十一日 P SF</p>	<p>三十一日 A 15d</p>	<p>取敢不針路九。度速力由節ト。豫定日ニ應ル 如ク行動セヨ</p>	<p>シ</p>
<p>三十一日 P SF</p>	<p>三十一日 A 15d</p>	<p>此ハ状態テ國後落伍モ止ムノ得サルモト認ム</p>	<p>シ</p>
<p>三十一日 A 15d</p>	<p>三十一日 P SF</p>	<p>國後ハ中波ヲ待受テオラス</p>	<p>シ</p>
<p>三十一日 P SF</p>	<p>三十一日 A 15d</p>	<p>要スルハ國後ハ中波ニテ適當ニ指令ノ上ニ返針スルヲ 可ト認ム</p>	<p>迄電</p>
<p>三十一日 A 15d</p>	<p>三十一日 P SF</p>	<p>レ度 日本丸分商後ノ燃料ノ関係上一日延期方取計ハ 七〇。ヨリ一四節トスルモ一〇時間航程遅レ居レリ</p>	<p>電</p>
<p>三十一日 A 15d</p>	<p>三十一日 P SF</p>	<p>ISd 機密第三三三。五。番電 國後ト電諾連絡ナシ今廻度針不安ナリ</p>	<p>電</p>
<p>三十一日 日本丸</p>	<p>三十一日 A 15d</p>	<p>我附近ニ木曾駆逐艦見テ國後航行セズ視界ヲ 約五。米國後感。</p>	<p>迄電</p>

134

<p>二十日 一九五〇 A Isd</p>	<p>二十日 A Isd</p>	<p>二十日 A Isd</p>	<p>二十日 A Isd</p>
<p>二十日 P Isd</p>	<p>二十日 A Isd</p>	<p>二十日 P Isd</p>	<p>二十日 P Isd</p>
<p>Isd 機密第三二七三。番電 五。我比緯四六度四九分赤経一五七度二七分針路 九。度速力十四節</p>	<p>Isd 機密第三二四。六。番電 濃霧隊形混乱補給困難ノ實情ニ鑑ミ五日 延期ニ付テ得ズト認ム適宜速力低下等行動ニ 関シ善処セ度</p>	<p>Isd 機密第三二五。番電 現針路速力國後ニ通報済ムヲ以テ暫クノ行動 ヲ續ク勝算ルルヲ待テ善処ス</p>	<p>二十日。六。ノ天気因ヨリ判断スルニ鳴神ノ天候ハ 二十五日二十日良好ニテ七日以後ニテラガハ勝望 ニシム</p> <p>ニ差アリ。日ヲ二十七日ト予定シ本日ハ夕刻迄ヨリ 針路ニテ日本九國後ヲ待テ夕刻ヨリ南下シ予定 航路ニ乘ル予定</p>
<p>無</p>	<p>無</p>	<p>信</p>	<p>信</p>

<p>二十月 P/F</p>	<p>二十月 A/ISD</p>	<p>二十月 P/F</p>	<p>二十月 P/F</p>
<p>二十月 A/ISD</p>	<p>二十月 P/F</p>	<p>二十月 A/ISD</p>	<p>二十月 P/F</p>
<p>敵潜水在確實ニシテ且敵水艦船出惠ヲモテ予想スヘキ南海面ニ於テ往復運動ヲナスハ有利ナラシ</p>	<p>三尚三。度ニ要針ノ要アリヤ</p>	<p>一現運動ハ五日ヲ二十日トシ潜水艦報晦ノ意味スニ十七日ハ不可能ナリ 二補給ハ本日阿武隈木曾ヲ実施シ明日駆逐艇ノ四隻ヲ實施ノ予定</p>	<p>二十月三三。外機密第五三三四番艦 一機直敵潜水艦ヲ制圧報晦スル如ク行動セシ度 二五日八日二十日又ハ二十九日ト予定ス 差當リ五日ヲ二十日ト予定セラル接触ノ虞アル敵潜水艦ヲ報晦スル如ク予定此ノ針路ノ予定 南下ヲ續クモ天候有利ナラス成可ク連ニ三〇。度方向ニ報晦シ日本丸待機線ヲ現在計畫線ノ北西方ニ変更補給ノ天候ニ即應進出シ得ル如ク行動セシ度キ内意ナリ</p>

135

<p>千七百 P/SF</p>	<p>千六百 A/SF</p>	<p>千六百 A/SF</p>
<p>千七百〇七一 A/182</p>	<p>千五百三十四二 HPB (HPB)</p>	<p>千五百五 HPB (HPB)</p>
<p>外信令第三二七號 一、五日ヲ二十九日ト予定ス 二、水雷部隊指揮官ハ右ニ應ズル如ク行動スヘシ</p>	<p>一、船 一八 二、要港(隔離)患者 海軍 九名 (一〇) 陸軍 四名 (二名) (註) 船ハ大急ノ意味ナリ</p>	<p>三、先信辨、主旨ニ依リ行動スルヲ任務達成トス 二、潜水艦船將必妥ト認ム HPB 機密第三〇九三番電 〇九二九五五〇了解セリ (註) 五五四「五日」ニ日線下ハ</p>
<p>信</p>	<p>〃</p>	<p>電 無</p>

<p>三十日 A 152</p>	<p>三十日 P 57</p>	<p>三十日 P 57</p>
<p>三十日 SF</p>	<p>三十日 若業 (向)</p>	<p>三十日 SF</p>
<p>三十日 SF 三、若業司令移業後ニ解列航隊所定ノ如ク行動スベシ</p>	<p>三十日 SF 若業ハ明日ハ八〇。及四〇九ニ北方部隊命令作 第二編ニ依ル特定略語六ニ四ヲ放送スベシ 以信令第三編</p>	<p>三十日 SF 一、第一主駆逐隊司令ハ島風ニ乗船水雷部隊 指揮官皆定ニ依リ警戒隊ノ指揮ニ任ズ可シ 二、若業ハ単独幌造ニ回航ハ海丸ニ應急修理 ヲ行フ可シ 三、初霜ハ國後航長ノ指揮ヲ受ケ日本丸ノ護衛 ニ任ズ可シ</p>

B6

	<p>三月十四日 A 15d</p>
	<p>三月 5F</p>
<p>一 本作戦中四番隊（指揮官二十駆司令） 二 小隊ヲ島風、五月雨（第一警戒隊） 三 小隊ヲ長波（第二警戒隊）ニ改メ初霜ヲ補給隊ニ編入ス 四 各警戒艇ノ序列ニ於ケル島風、五月雨、長波ノ白位ハ其ノ儘トシ縱陣列ニ於ケル長波ノ位置ハ三番隊ノ後トシ初霜ハ特令ナケレバ國後ニ續行スルモノトス 五 警戒艇航行序列及警戒隊警戒艇中第一第一 六 警戒隊トシテ第一第二警戒隊ニ改メ</p>	<p>15d 信令第三締</p>
<p>号</p>	<p>信</p>

134

二十八日
P
5189

二十八日
P
HPB
(P
HPB)

5189 機密第七三三八番電

二十日以後霧ノ消生少ク二十三日以來二十
四日ヲ除ク連日快晴ニシテ霧ノ最盛期ハ
既ニ過ギタルモノト認メラル今後果シテ有
上旬ノ如キ連續セル霧ヲ望ミ得ルヤ疑問
アリ前回行動準備ノ為兵器藥品多數
ニ處分シ戦力持續ニ相當ノ弱矣ヲ生ジタ
又二十二日以降ノ好天氣ニ依リ敵機ノ
行動者稀ニシテ彈藥消耗多ク高角砲
彈藥ハ海陸軍共ニ殘額少ク尙敵ノ
行動ハ日ヲ經ルニ從ヒ積極的トナリ
警戒益嚴重トナリツラアリ万一今次ノ
行動中止セララルガ如キ事アリテハ次回行
動迄甚ダ困難ナル事態トナリ又再興
決行モ益困難トナルベシ天候ヲ見定メ好
機ヲ逸スルコトナク敢行セラレシコトヲ希望ス

電 無

<p>二十八日〇六三〇 P 15d</p>	<p>二十八日 SF</p>	<p>信令第一四號 現隊形ヲ散開隊形形制形要領左ノ外 作戰命令所定ニ依ル 日本丸直進阿武隈左ニ。度多摩右三。度 木曾左四。度島風右五。度五月兩右七。度</p>	<p>信</p>
<p>二十八日〇八五 P 15d</p>	<p>二十八日 SF</p>	<p>信令第一五號 機密水雷部隊命令作第四號中左ノ通告 一輸送部隊ノ編制第一輸送隊阿武隈 ニ番隊第二輸送隊木曾三番隊（指揮 官木曾艦長） ニ警戒艦配屬区分 島風五月兩ハ先奔輸送隊ノ前方長 波ハ後續輸送隊ノ後尾 三長波ノ警戒泊地ヲ「丁」鋪地トス 四「庚」以後ノ航路 第一輸送隊ハ作命令第二輸送隊ノ航路 第二輸送隊ハ同第三輸送隊ノ航路</p>	<p>信</p>

<p>二十一日 P 18d</p>	<p>二十一日 P 5F</p>	<p>二十一日 P 5/18g</p>
<p>二十一日 5F</p>	<p>二十一日 水雷部隊</p>	<p>二十一日 P HPB (部 HPB)</p>
<p>信令第一六號 第四(五)警戒航行序列ヲ散開隊形ヲ制 ル場合ノ運動要領中左ノ通改ム 一長波ハ右二三。度回頭三番隊司令ノ指揮</p>	<p>三補給部隊ノ行動ニ関シテハ特令ス ノ所信ニ任ス 二小敵ト會敵ノ場合ハ水雷部隊指揮官 戰鬥要領ハ北方部隊戰策ニ依ル ハ水雷部隊指揮官之ヲ率ヒ戰鬥ス 會シタル時ハ本職多摩木曾ヲ率ヒ 主隊トシテ行動ス爾余ノ部隊(補給隊欠) 戰鬥要領ハ北方部隊戰策ニ依ル</p>	<p>5/18g 機密第二八一。ニ。番電 〇九五二。六二四。了解セリ 一註「六二四」五目ヲ一日繰下グ</p>
<p>2 手</p>	<p>信</p>	<p>電 無</p>

二十八日
P
5189

二十八日
二〇五〇
P
ISA
P
HPB
P
HPB

ヲ受ク
ニ多摩列中ニアル場合多摩ノ回頭角度ヲ
右カ。度トシ三番隊長波ハ夫々所定角度
ヨリ二〇度後方ニ回頭ス

5189 機密第二八一七四ニ番電

本日ノ愧遜及執田島ノ天候ノ状況其ノ他ノ
急方一行動隊着豫定時刻ヲ著シテ繰上
ゲラルル場合ハ左記ニ依リ通知ヲ得度
略語

入港豫定時刻ヲ二時間繰上グ

三時間

四時間

五時間

六時間

ニ送信法

指呼及冒頭ヲ冠セズ略語ヲ三回以上連送

電

無

<p>二十九日 P 15d</p>	<p>二十九日 P 15d</p>	<p>二十九日 P 5F</p>	
<p>二十九日 5F</p>	<p>二十九日 5F</p>	<p>二十九日 P 15d</p>	
<p>水雷部隊信令第一八號 二、第四、第五警戒航行序列ヨリ散開隊形ヲ制ル場合ノ轉舵角度更ニ左ノ通り改ム 阿武隈島風五月兩長波朝雲薄雲響夫々右四。度五。度七。度九。度一。度三。</p>	<p>信令第一七號 一、第四(五)警戒航行序列ヲ左ノ通改ム 水雷部隊ハ現航行ノ序(作命令所定)但シ長波ハ五月兩ノ後各驅逐艦ノ距離五。二、本日以後ノ變針ハ信號ヲ用ヒズ行フ場合アリ</p>	<p>五分間隔ニ二回實施 三、使用電波七七三五K.C.(タン五八) 一、霧ノ狀況行動ニ最適天佑神助ナリ 二、鳴神進入時刻ヲ繰上ゲノ實施スルヲ適當ト認ム</p>	
			信

<p>二十九日〇六五 P/Isd</p>		<p>二十九日 P/SF</p>
<p>二十九日 水雷部隊 (P/SF)</p>		<p>二十九日〇三五 P/Isd</p>
<p>一、一四三。突入ノ豫定 ニ各員協同一致任務ノ達成ヲ期セヨ</p>	<p>線上ケルヲ有利ト認メラル為念 敵機ノ活動封殺ノ好機ニ乗ジ第ニ難矣 タル出港時俟視界ヲ考ヘ敵ニヨル混淆ヲ 避ケ且敵警戒ノ裏ヲカク為入港ヲ成可ク</p>	<p>度木曾夕雲風雲秋風夫々左四〇度四〇度 六〇度九〇度 ニ右散開隊形制形後「各隊入港セヨ」令 アラバ「阿武隈四番隊」木曾ニ番隊「三番 隊」各組毎ニ行動スルモトス（行動要領 各部ニ通報）</p>

号

信

No.

<p>二十九日 P 51B9</p>	<p>二十九日 P 51B9</p>	<p>二十九日 P 51B9</p>	<p>二十九日 P 51B9</p>	<p>二十九日 P 15A</p>	<p>二十九日 P 51B9</p>
<p>二十九日 P HPB</p>	<p>二十九日 P HPB</p>	<p>二十九日 P HPB</p>	<p>二十九日 水雷部隊</p>	<p>二十九日 P 51B9</p>	<p>二十九日 P HPB</p>
<p>51B9 機密第二九一三二八番電 行動隊着</p>	<p>51B9 機密第二九一三二番電 待機大弁弁道</p>	<p>51B9 機密第二九〇九二番電 〇九〇。ユ了解セリ (註) 入港決定時刻ヲ四時間繰上ク</p>	<p>鳴神港ニ侵入任務ヲ達成セリ成功ヲ祈ル</p>	<p>本日ノ天佑我ニ在リト信ズ 適宜又轉サレ度</p>	<p>51B9 機密第二九〇六一三番電 昨日未當方面霧濃淡アリシモ現在霧深ク 終日霧續ク見込各基地共敵機ノ出現極メ テ少ク好機ナリト認め X 廿四日 X</p>
		無	号	信	電 無

<p>三十日二三四 P/ISd</p>	<p>二十九日一七四〇 P/ISd</p>	<p>二十九日 SB (HPB)</p>	<p>二十九日 P/5/89 北海守衛隊 司令官</p>
<p>三十日 P/9F P/HPB (總長 各P/HPB 北方軍司令部 參謀長)</p>	<p>二十九日 ISd</p>	<p>二十九日七〇五 伊二潜 (P/9F 各PP/HPB)</p>	<p>(神HPB 潜水部隊HPB) 二十九日一四〇五 P/9F P/5F 大木隆 (P/ISS P/12AF) 海陸軍總長 北方軍司令部</p>
<p>ISd 機密第三二二二番電 北方部隊水雷部隊戦斗速報 全負收容帰投中 異常ナシ</p>	<p>ISd 機密第三二二二番電 幌筵海峡歸着迄油断スルコトナク対敵警戒 戒厳ニ航海保安ニ万全ノ注意ヲ拂フヤシ</p>	<p>SB機密第二九一六二五番電 伊二潜ハ七月二十九日夜間「アム4トカ」飛行 場ヲ砲撃セヨ</p>	<p>5/89 機密第二九一三四一番電 行動隊入港決定ノ如ク行動ス 北方軍ニ對シテハ 12AFヨリ 幌筵戦斗司令部 左由処理サレ度</p>
<p>号</p>	<p>信</p>		<p>電</p>

147

1200

141

<p>三十一日 二〇〇 P Isd</p>	<p>三十一日 二三五 P Isd</p>
<p>三十一日 P HPB 總長 卸</p>	<p>三十一日 P SF</p>
<p>Isd 機密第三二一三番電 水雷部隊(北方部隊) 戰鬥概報(七月三十一日) 一、二十九日一三四。鳴神港着全負收容了了 一四三五弁 第二輸送隊(木曾外驅逐艦五隻)八三十一日 一四。第一輸送隊(阿武隈他驅逐艦四隻)八</p>	<p>Isd 機密第三二一三五番電 貴機密第三三〇一〇番電返 一、第一輸送隊及第二警戒隊 (一)阿武隈(一)七〇六(内要坦四)四五〇四(一) (二)四 (三)夕雲 (四)四七九 (一)三 (三)風雲 (一)四七四 (一)三 (四)秋雲 (一)四六三 (一)四 (五)二十二日 觸衝 = 依ル 損傷、外各艦異常七 二、全員收容(五一八七名)</p>
<p>無</p>	<p>無 電</p>

<p>三十日 P 5F</p>	<p>三十日 P 5F</p>	
<p>三十日二〇〇 P 5F P 12AF</p>	<p>三十日一三五五 P 5F 總長 卸 大警 横鎮</p>	
<p>奮勵以テ任務ノ達成ヲ期スハシ 北方方面作戰部隊ハ今後ノ戦局ニ処シ愈々 ケ務作戦ニ対スル各員ノ心勞ヲ多トス F機密第三一〇一四番電</p>	<p>傳ハラレ度 閣係各部 參謀總長 北方軍司令官ニ 收容自下 糧運ニ故投中 鳴神港ニ進入所在陸海軍部隊ノ全員ヲ 天佑神助ニ依リ水雷部隊ハ二十九日 F機密第三一二〇五番電 ケ一號作戦速報</p>	<p>一日〇五〇。幌延着ノ豫定 ニ終始霧ニ專マレ鳴神島周辺ニ於テ往路 數回敵電探音ヲ感知セルモ敵ヲ確認 セズ歸路淡霧中約二千米ニ敵潜水艦 ヲ認メタルモ瞬時ニ潜没セルヲ以テ回避突 破ス其他會敵セズ各艦異常ナシ</p>

電

一日五三
P 5F

二日

軍令部總長
P 5F

二日七五

5F機密第0053番電
コケ號作戰概報

本職多摩ヲ率井水雷部隊ト共ニ七月
二十日幌筵海峡出撃ニ九日七〇。鳴神島ノ
南西方約五。哩ニ達シ水雷部隊ヲ分進
突入セム

水雷部隊ハ一三四。鳴神港ニ進入所在陸
海軍守備隊全員ヲ收容八月一日〇五三。幌筵
海峡ニ歸着並ニケ號作戰ヲ完了セリ
撤収人員海軍ニ五八名陸軍ニ六六九名
遺骨三。柱霧中待機中輕微ナル觸衝
事故奔生セル外艦艇ノ損傷ナシ惟フニ本
作戦ガ濃霧敵機ノ活動全ク封殺セラレ敵
艦隊ノ哨戒亦不備ナル好機ニ乗ジ得タルハ
全ク天佑神助ニ依ルモノニテ感激ノ外ナシ
5F機密第0060番電

P
57

P 大警	(却 57	HPB
P 4外	P 1247	

八月一日より九月まで作戦完了又

五、戦果
及被害
交戦
戦セズ

六、功績

本作戦行動海面天候殆んど全期間ヲ通じ濃霧ナル
 霧ニテ終始極メテ困難ナル霧中編隊航行ヲ續行シマツ
 光ク其ノ濃霧ヲ善用シ敵艦艇並ニ航空機ノ哨戒徹奪
 極メ鳴神港ニ突入シ兵ヲ損ヌル無クシテ完全ニ其ノ
 任務ヲ遂行シ其ノ功績拔群ナリ

七参考

(1) 戦訓

(1) 用兵一般

(1) 今次作戦ハ巧ニ天象ヲ利用シ敵ノ虚ニ乗ジ見事ニ
 完遂セラレ其ノ成果ハ蓋シ前古未曾有ノモノト稱スルヲ
 得ベシ 而シテ斯ク如キ成果ヲ獲得シ得タル所以ハ
 一ニ御後威ノ下天佑神助ノ然ラシムル處ナリト雖モ又
 参加各部隊ノ周到綿密ナル計画ト果断ナル遂行ニ
 在リト謂フベシ

之ノ莫ニ関シ分類考察セバ概ネ左ノ如シ

(a) 七月上中旬ニ於ケル第一次作戦ニ於テハ數日ニ亘リ天象
 ノ利ヲ獲得セシト努メタルモ果サズ遂ニ再興ヲ期シ

一旦引上ゲタルモ是第二次成功ノ招因タリ

若シ實施部隊が當面ノ必要ニ執着シ天象ノ利未ダ
充分ト稱シ難キ第一次ニ猶突断行シタリトセバ其ノ
結果ハ蓋シ思半ニ過ゲルモアリ

抑天ノ利ハ人カヲ以テ之ヲ左右シ得ベキモノニ非ズ人カハ
天理ニ比シ極ステ微弱ニシテ只克ク天理ニ順應シテ
天ノ利我ニ在ル時敢然之ヲ利用スベキモノタル以上
第一次作戰ヲ中止シタルハ正ニ今次大成功ノ素因ヲ爲
セルモノト謂フベシ

(ハ)七月二十九日突入ニ決シタルハ前後ヲ通ジ最良絶好ノ天象
ヲ捕捉シ得タルモノニシテ顧レバ之人カノ致セル所ニ非ズレテ
一ニ御稜威ノ然ラシル所ニシテ天佑神助ニ假スベキモノト

認ム

144

(c) 濃霧中、鳴神島ニ接近シ、十隻ニ余ル部隊ヲ以テ同島
 ヲ編隊迂回シ相當ノ高速力ニテ目的地ニ突入シ得タルハ
 詢ニ航海術ノ粹ヲ發揮シタルモノト稱スベク又果斷決行
 ノ賜ト謂フベシ。然モ當時ノ狀況ヲ顧ミルニ天佑亦我
 ヲ加護セラレタルノ跡アリ即

七月二十八日(突入前日)午前偶僅少時間、天空ノ一部
 晴ル、アリテ天測ヲ實施シ得而モ各艦ノ測定位置
 概ネ符合シ、艦位ニ自信ヲ得タリ

七月二十九日、霧ノ間ヨリ鳴神島ノ西南端ヲ一ニ
 分間視認シ得、艦位ヲ確認スルヲ得タリ

一三三〇頃、松ヶ崎附近到達、頃ヨリ鳴神湾内水平
 視界開ケ入洶及揚收作業極メテ迅速圓滑ニ實
 施シ得タリ

(山) 鳴神島突入ハ日没前約一時間ニ計画シヤリタル処當日ノ天候極メテ我ニ有利ナリシヲ以テ約四時間繰上げ断行セリ然ルニ敵ハ從來我潜水艦ノ鳴神島進入ノ状況ニ鑑ミ昼間ハ距岸遠ク哨戒シ日没前後ニ至リ島附近ニ出現スルヲ例トシヤリテ當時ハ未ダ遠距離哨戒中ナリシモノト判断セラル又七月二十六日一九三〇頃敵ハ七夕湾外ニ於テ約四十分間照射砲撃ヲ實施セル事實アリ前後ノ状況ヨリ判断シ味方打テヲ行ヒタルモノト推定セラル當日豫期セル敵水上艦艇トノ會敵全然無カリシハ右味方打テニ関聯シ或ハ哨戒艦艇全部ヲ撤シヤリタルモノトモ判断セラル

右何レノ場合トスルモ事實ニ敵ノ虚ヲ乘ジ得タルモノト謂フベシ

1125

(2) 今次「ケ」号作戦ハ見事ニ成功セリト雖モ北方方面ノ情勢
 フシテ現状ニ至到ラシメタル原因等ヲ考察シ熱田島 鳴神島
 占領當時ヨリ南方方面ノ作戦ニ從事セらるる戦隊トシテハ誠ニ
 感慨無量ノモノアリ

今ヤ帝國ノ作戦ハ戦線ノ南北ヲ問ハズ敵ノ攻勢ニ対シ
 收縮防禦作戦ヲ實施シソソアルハ明ナリ
 斯ク如キ状況ニ至到リタルハ要スルニ緒戦ノ勝利ニ酔ヒ
 敵ヲ下算シ盡スベキヲ盡サザリシニ因ルモト稱スベク其ノ
 責ハ均シク全海陸軍ノ負フベキ處ナリト認ムルモ今コソ
 奮起一番慎重ニ將來ヲ考察シ兵理ニ基キ不敗ノ備ヲ
 急速實施スルト特ニ肝要ナリト認ム

(一) 砲戦及関係兵器施設

霧中砲戦

- (1) 電波探信儀ヲ利用スル射撃方式ノ急速實現ヲ要ス
 今次作戦ニ於テハ砲戦生起ノ機會ナカリシモ敵ガ
 既ニ電波探信儀ヲ射撃ニ活用シテツアル現状ニ鑑ミ
 今次旬日ニ亘ル霧中作戦行動中敵ノ攻撃ニ對スル
 應戦法ニ関シテハ大ニ苦慮シツアリタリ
 霧中夜間等狹視界時ニ於ケル先制射撃効果
 奔揮上精度良好ナル電波探信儀ノ出現竝ニ右ヲ利用
 スル射撃方式ノ確立ハ現下喫緊ノ事項ト認ム
 (2) 霧中ニ於テハ方位盤照準不能ニシテ砲側照準ニ依ル
 射撃ヲ必要トスル場合多シ

今次作戰行動ニ於テ阿武隈ハ鳴神港口ニ於テ敵ノ
 艦影ヲシキモノ（後ヨリ陸地ナルコト判明）ヲ奔見之ニ對シ
 戦斗ヲ決意セルコトアリ又歸路鳴神島北西方海面ニ於テ
 敵潜水艦ニ會敵セルコトアリタルモ兩回共上甲板（砲側）及
 艦橋ニ於テハ充分視認シ得タル情況ナリシニ不拘射撃所
 及指揮所ニ於テハ遂ニ奔見スルヲ得ザリキ
 右ノ如ク濃霧狹視界中ニ於テハ方位盤照準不能ニテ
 砲側照準ニ依リ射撃實施ヲ要スル場合多ク斯ル場合
 砲術長ハ艦橋豫備指揮所ニテ指揮スルカ或ハ砲術
 長ヲシテ砲側ニ於テ直接指揮セムル等ノ着意アルヲ要ス

③ 防空及関係兵器施設

今次作戰ニ於テ阿武隈 水曾ニ対シ七種野戰高射砲一門
宛(陸兵附屬)ヲ後甲板ニ假裝備シ対空戰鬥力増加ニ資セシメ
タリ 實地使用ノ機會ナク實効ハ檢討シ得ラレザリシモ全然
無キニ逸ニ優ル有効ナルモト認ム 然レ共 現在ノ各輕巡カ
斯ノ如キ措置ヲ講ゼザルベカスガル狀況ニ放置セラレハ
根本的ニ誤ニテ緊急徹底的対策ヲ講ズルノ要ニモト
認ム

(四) 通信及暗号

第一味方通信関係

一北方部隊ニ於テ短波通信ノ重要性ヲ認識シ、装備訓練共ニ層々充實ヲ要ス

(一) 高緯度地方ニ於テハ波長小ナル電波ノ遠達ハ著シク不良ニ反シ、中長波ノ通達ハ良好ナリ、特ニ超短波遠達ノ顧慮少ク警戒航行中隊内通信用トシテ有利ナリ

(二) 霧中航行中通信ノ確實通達ハ超短波電話ニ依ルヲ第一トス、而シテ今次分ケル号第二期作戰第二次行動、如ク長期連続霧中航行ニ於テハ隊形ノ維持及保安通信ノミニテモ通話量ハ著シク増加シ、常用一被ニテハ殆ト飽和スル状況ナリ、故ニ會敵ヲ豫期シ、電探、検知機、活用ヲ因ラントシ、且緊急保安通信ニモ備

シメハ甚クトモ左記程度、超短波無線電話機ヲ必要トス
艦隊一般用(水戦一般) 九三 一台

水戦各司令艇逐艇及旗艦間 九三 一台
各駆逐隊内用 九〇 一台

(一) 冬期、荒天、夏期、濃霧、為行動中、九〇式電話電波轉換ノ如キハ殆ト予期シ得ズ、濕氣、為兵器故障、懸念セシキヲ以テ兵器數ハ余裕アリ且性能ヲ向上スルヲ要ス

(二) 「ケ」號第三期作戰第二次行動中(自七月三十日)連續濃霧ニテ超短波一波特時配員ヲ終始シ行動開始時ヨリ電話連絡不良ナリシレ國後ハ二十三日連絡ヲ失ヒ主隊ノ行動不明トナリテ之ヲ搜索スル中二十一日阿武隈ト霧中衝突シ三原因シテ若葉初霜長波、衝衝トナリ鳴神突、今直前ニ控ヘテ戦上多ク大支障ヲ生スルヤニ見エタリ

149

右事故ノ根本原因ハ國後ガ電話連絡ヲ失ヒ隊列ヲ離レシムコトニ
 毛若葉初霜等ノ融衝ニ因シテハ通話員ガ日本丸ト國後トノ通
 話番號ヲ誤リ「何武隈 國後ト衝突」ヲ「何武隈 日本丸ト衝突」
 ト送話セシムトニ要因アリ是訓練未熟ナリシニ因ルモト認メ
 以テ如ク北方部隊ニ於テハ超短波電話通信訓練ハ特ニ重要ニシ
 テ日常ヨリ之ガ取扱ニ慣熟スル如ク訓練ノ勵行ヲ因ルト共ニ兵器
 ノ充實整備ニ関シテハ特別ノ注意ヲ拂フ要アリ

二無線電機電波精度ノ劃期的向上ヲ因リ濃霧季節ニ於ケル霧中
 襲撃ヲ容易ナラシムルヲ要ス

（ハ）今次ノ号作戦ノ成功ハ倭軍敵ガ各様ノ手段ヲ以テ我千島列島
 ニ對シ極メテ有力ナル兵力ノ穩密揚陸ニ成功シ得ヘキコトヲ教ヘタルモノニ
 シテ斯レ敵ニ對スル最モ有効ナル攻撃法ハ霧中活動自由奔放ヲ驅
 逐隊襲撃ニ在リ

(一) 敵有力精巧な雷探アルモ人ユ水線等ニテ、彈道半低ラザル。料以テ射撃精度、極メテ不良ニ反シ我ガ雷探ヲ活用シテ、料附近ニ於テ襲撃ニ有利ナル位運動ヲナスコトハ容易ナリ

(二) 霧中は標ヲ曳行セ、赤外線目標灯等ニ依リ霧中運動ヲナス敵ト雖モ必然、距離ヲ短縮シテ終リシ縦長な隊形トナルハキハ疑ヲ容レサルトコトヲ以テ我雷撃ノ効果ヲ發揮スルニ極メテ有利ナリ況ヤ平面的な霧中発射ハ、三行的な霧中砲撃ニ比シ成功ノ算極メテ大(但シ目標探定ニ関シテ、射撃判断適否ニ依リ其ノ効果ヲ左右スルコト大ナリ)且効果ハ偉大ナリ

(三) 潜水艇ニ依ル霧中襲撃モ有効ニシテ大ニ活用スベキナルモ之ガ實現ニ驅逐艇ニ数倍スル装備訓練ヲ要シ且之ハ主トシテ敵地ニ近キ補給線ニ指向スベキモノト認ムルヲ以テ先ヅ霧中掃隊襲撃可能ヲ驅逐隊ヲ整備スルヲ急務ト認ム

150

(四)霧中運動、自由、確實、迅速に霧中襲撃が可能なら

シル為ニ先ツ確達ヲ期シ得ル通信装置ヲ整備スルヲ第一トス

(一)現九〇九式超短波無線電話ノ周波数精度ガ通信確達ハ速ニ

改善スヘキ事項トサレラルル象知ノ事實ニシテ且九〇式空三ノ四ノ式

空三ノ隊内無線電話機等ガ遙カニ周波数精度良ク距離方向

一定範圍内ニ於テハ確達ヲ期シ得ラルトモ亦同様ニ五ノ八ノ認

ルトコロナリ

(二)今次行動中二日間連続使用後、電話通信ニ於テ日本丸ガ

長波ヨリ最も近距離ニ在リテ兩艦ノ連絡モ良好ト認メ日本

丸感度低下後ノ通話ハ長波中継ヲ實施シ漸ク之ガ連絡ヲ保

持シアリタルニ至リ五。須視界突如拓ケタルトキノ實際ノ關係

(三)置(乙因)ト予想(所定)ノ關係位置(甲因)トハ左ノ通ニシテ

船所多數ニ場合感度差ナルモカ距離ニ非スレテ周波精度ニ關

數

151

以ハ三巨ルコトヲ豫期スヲ要スル為水雷部隊内ノ超程波ハ一彼ヲ以テ
 全艇艇(十隻)ヲ賄フ計画ヲ出テ發費施セルモ之ガ整合ハ極メテ
 困難ニシテ其ノ状況一例ハ前項長波ト日本丸ノ如シ海ヲ運動通
 話ハ必ズ各艇ノ解ヲ得ヤル危険ニシテ發動迄五分乃至十分ヲ要
 スルヲ屢ナリ斯レテハ霧中戦斗ノ如クハ思ヒ及ハサルトコトナリ

(四)通信ノ迅速確實ヲ通達六各駆逐隊内ノ通信系ト各司令駆逐
 艦旗艇間ノ通信系トニ分類ス可トスモ現状配員及兵器ヲ以テ
 ハ斯ル配備ヲ一週間以上續ニスルヲ徒ニ通信力ノ消耗ヲ求
 ス所以ナリ即チ各司令駆逐艦ハ旗艇ニ於テハ電話員ヲ長
 期ニ直リ常時配員スルコトハ不可能ナリ但シ電話機優秀ニシテ無
 調整ヲ直直シ得ルモノナラハ一人ノ直直員ヲ以テ二波待受レ通信
 輻輳ノ情況ニ依リ適時増員シ得ベシ現配員ヲ以テシテモ所要
 ノ通信力ヲ發揮シ得ベシ以テ(三)前項通話配備ノ如何ヲ問

ハ無線機ノ性能ヲ向上シ無誤合通話ニ依リ確達ヲ期シ得ルニト
ガ霧中戦斗ヲ可能ナラシムル爲メ緊要ノ要求アリ
無線機ノ改善ト訓練トニ依リ放送通話ノ域ニ速ニ到達
スルヲ要スルモノト認ム

三 對謀防衛略語通信ハ有効ナリ

今北方部隊旗幟ノ作戦行動中ノ通信法トシテ採用セル略語
通信ハ左ノ通シテ成功セルモノト認ム

電波 七三五Kc (タン五八)

北方部隊潜水部隊用

略語 第一次 假名一字

第二次 数字二字 (為防衛ニ数字和ハ偶数)

放送形式

第一次 (假) (假) (假) 一回放送

第二次 略語 (数字二字)ヲ十秒間隔ニテ三回連送

152

1600

四 中波通信ニ対スル認識ヲ新ニ長波中波ノ用法ヲ更ニ適切トシムルヲ

ニ因リ層々考慮ヲ要シ且裏ノ裏ヲ搔ク等通信戦トシテハ興味
ア事項ニシテ適切ナル計画実施ニ依リ投機性ヲ極ク小ナラシムルヲ要
ス

- (一) 但シ指呼目頭ヲ冠セズ
- 放送確達上第二次行動中ハ幌造在自形船(那智)ガ略語内
容ヲ暗号文トシテ再送シ通達良好ナリキ
- (二) 本通信法ヲ常用スルコトハ償値少キモ対謀防衛通信法トシテ
時機又ハ一向地ニ利用シテ成功ノ算大ナリ但シ之ガ実施上ハ
 - (一) 敵監視ニ居ラサル電波使用及轉換
 - (二) 強力ナル偽電防衛法
 - (三) 完全到達ノ手段

要ス

(1) 従来二号無線電送機ヲ使用シ船隊近距離通信ハ主トシテ中波ヲ以テ充足シ来リタル結果中波ハ遠達性少ク且船上方位測定困難ナリトノ見解ハ依リ戦時特機ニ於テ依然陸上通信基地トノ通信ニ巨高四。哩以内ニ中波ヲ使用シ我船隊ノ出動ヲ察知セラタル例アリ左記ニ留意ヲ要ス

(1) 対敵通信ノ主力ハ陸上基地ニ在リ船艦ノ通信探報能力ハ極メテ微力ナリ

(2) 現用式、ニ式中五号送信機ノ通達巨高ハ昼間六。哩以上夜間一五。哩以上ニ達シ特ニ夜間中波ノ使用ハ敵陸上通信基地ニ通達方位測定目標トナル危険大ニシテ中五号トニテ電送トノ兵器誤用ニ依リ防衛上中波使用ノ目的ニ反スル虞アリ又ニ号電送ト雖モ夜間ノ空間波ハ相當遠達スルコトニ注意スル要アリ

153

(三)之ヲ以テ推ストキハ通信防衛上中波ニ代フルニ長波ヲ以テスルガ通達距離ノ限定ヲ因ルニ有利ナルヲ多シ即チ長波ハ夜間ト雖モ送信勢力ノ加減ニ依リ通達巨高ノ伸縮が比較的適切自在ニ管制シ得ラルルガ故ナリ但シ敵艦隊ト遭遇ヲ予期シ艦隊内近距離用一般電波捕捉測定ガ戦術運動ノ適否ヲ決定スル如キ情況ニ在リテハ素ヨリ再考ヲ要スルモノナリ

(四)北方部隊一般用電波ハ短波代用トシテ長波ヲ主用シテ従来作戰上ノ要求ヲ充足シ末リタルモ今次ケレト号作戰、如ク幌燈ヲ亮ル。○埋大湊ヨリ八。○埋ノ鳴神島ニ行動スル部隊ノ通信計畫トシテハ稍異様ノ感アリ一般短波ノ設定必須ナリシモト認ルト同時ニ激烈ナル戦斗生起場合空中線被害ニ依リ長波ノ通信ガ直ニ不能ニ陥ル虞アルハ言フ後ヲサルトコトナルヲ以テ一般短波ヲ使用セラル場合ト雖モ中波ニ依リ陸上基地(幌通夜間ハ大通ヲモ配ス)ニテ通達ヲ因ルモ一法ナリト

思考ス（但シ巡洋艇以テノ可能）

ハ中波電波管制ハ晝間ハ長波、夜間ハ短波ト同様ニ實施シ時域ニ
應ジ適切ナラシムルヲ要ス

◎例（ノ項参照例）

七月三十日幌燈ニ收投中ノ第三輸送隊（木曾及必）及多摩ハ午後ヨ
リ夜ニ亘リ木曾ニ通多摩三通ノ電報ヲ送信（電波二四八。Kc）

幌燈通信セルニ對シ敵ノ北太平洋方位測定管制系ハ二四八。Kcニ對シ二二〇
ヨリ統測定ヲ指令セリ（大海特務班機密第三二四〇七番電差監）

本行動中敵ガ我艇隊通信ニ對シセル唯一ノ統一方位測定ニシテ陸上ノ感
度ニ依ルモノナルカ艇船側ノ感度ニ依ルモノナルカ又統一統一定可能ナリシカ

否カハ不明ナルモ艇隊ガ太平洋上ニ出動セルヲ察知セルモト判断シ得
ル

尚當時幌燈ハ二三四。Kcニテ艇隊宛放送スルヲ屢ナリシモ本電波ニ對

160
100
0095

154

スル敵通信基地ノ動キ現ハレサルトコロ見テ二四八。Kcハ二六四Kcヨリ遙カニ遠達「カルク」以西ニ及ブ「レアリ」カポト確實ナリ大勢ニ影響有スルハ無カリシモ二六四Kcヲ使用スルガ遙ニ有利ナリレポート思考ス 當時木曾及多摩ノ幌造ヨリノ距離ハ四〇哩乃至三〇哩ニテ近ツキツアリ

木曾多摩ノ発信状況表、如シ

七月三十日 木曾 多摩 中波使用状況

送信時刻	送信機	相手機	通信文	番番号	使用電圧	感度	記事
1946 (108)	多摩 (多摩)	幌	通	30 1310			
1542	木曾	"	"	30 151500	中2号 (500V)	2	
1825	"	"	"	30 173500	" (200V)	2	2480Kc. (4715)
1851	多摩	"	"	30 1650	" (?)	2	
1956	"	"	"	30 1930	" (?)	2	
2113	"	"	"	30 1958	" (?)	2	

五 作戰部隊内ノ使用電波ハ各作戰毎ニ轉換スルヲ要ス

(1) 北方部隊ノ一般中波二四八。K.C (4ウ5) 超短波 四六四。K.C (テタ九)

ハ長ク使用セラレ敵側監視モ嚴重ナラントノ判断ノ下ニ

水雷部隊ニ種電波三六五K.C (4ウ一六ニ) 三七〇。K.C (テタ一六ニ)

ヲ以テ作戰部隊内電波トシ第一次第二次行動共ニ使用ス

(2) (テタ一六ニ)ハ全行動期間ヲ通ジ連續使用ノ已ナキ状態

ニシテ其ノ間敵潜水艦ノ電探音ヲ檢知スルコト數回アリ

シモ被發見ノ形跡ナシ

(3) (4ウ一六ニ)ハ鳴神島ヨリ歸投中ノ阿武隈ハ三〇日午前

〇七ニセ以後一八ニ九迄補給隊(日本丸)ト交信電報量

一〇通ニ上リシモ敵ノ目標トナラズ。七三。頃ノ位置ハアム

4トカレ島ヨリ四。埋アソソ島ヨリ三五。埋幌建ヨリ約

六五の理ニシテ前四項(4ウ一五)ノ場合ニ及レ敵ノ注意ヲ喚起セザリシハ主トシテ左ノ理由ニ依ルモノト認ム

(一)從來使用セザリシ電波ナルコト

(二)晝間ニテ遠達セザリシコト(ニ号無線電話機使用)

(三)今次ノシ号作戰ニ於テ第一次第二次二十日間ニ亘ル

水雷部隊ノ行動が全ク敵ノ感知スルトコトナラズ鳴神島撤退ヲ眞ニ穩密裡ニ實施シ得タル一因ハ敵ノ注意シオラザル電波ヲ使用セルニ在リト認ム

第二 電測 關係

一水雷戰隊所屬艦裝備ノ主電波探信儀ハ對水上艦船用

トシテ砲雷戰測的可能ナル如ク副トシテ見張用電波

探信儀ヲ裝備スルヲ要ス

2600

156 ✓

- (A) 防禦戦闘機ヲ隨伴スルコトナク其ノ對空防禦砲火モ僅々
 一。料以内ニ於テ有効ニシテ機動部隊(空母基幹)トノ協同
 作戰ヲ期待セザルモノトセバ北方部隊水雷戰隊トシテ敵機
 未襲ヲ百料ノ遠距離ニテ豫知スル能力アルトモ之ヲ利用シテ
 敵機ニ對シテ執ルベキ次ノ攻撃防禦ノ手段ハ皆無ナリ敵攻撃
 國內ニ行動スル場合ハ對空砲火ノ配備ヲ嚴ニシ主トシテ視界内
 ニ出現セル敵機ニ對シテ處置スルヨリ他ニ策ナキヲ以テ現裝備
 二号一型電波探信儀ハ前進根據地ニ於ケル對空警戒用トシテ
 有効ナル程度ナリ
- (B) 北方部隊水雷戰隊が今後ノ戰局ニ於テ担当スベキ任務ハ
 (一) 敵潜水艦ノ掃蕩撃滅
 (二) 敵上陸部隊ノ撃攘
 (三) 洋上敵艦隊ノ捕捉撃滅

ナルバク右ノ何レノ場合ニ於テモ敵艦艇ノ早期発見捕捉
 及夜間霧中測的ヲ電波探信儀ニ對シテ要求スベシ故ニ
 水雷戰隊用電波探信儀ハ對水上艦艇用ナルヲ要ス
 (イ) 今期霧中行動中ノ狀況ニモ鑑ミ敵部隊ニ對スル霧中襲
 撃ヲ可能ナラシムル爲ニハ對水上艦艇用電波探信儀
 ノ能力ヲ一層向上シテ魚雷戰及砲戰測的兵器トシテ充分ナル
 モリヲラシムルコト緊要事ナリ(現用ニ号ニ型(島風裝備ノモ)
 ハ見張搜索用ニシテ到底測的用途トシテ充分ナル能力並ニ施設
 ヲ具備シ居ラズ速ニ改善ヲ要スルモノト認ム)

北方ニ於テ夏期ノ作戦行動ニ對敵ノミナラズ我軍自体
 ノ運動ニモ霧中夜間ノ測的兵器トシテ電波探信儀ノ
 裝備ハ必須ナリ(北方夏期ニ於テ霧中戰鬥ニ関シ萬全ノ
 策ヲ講ジテハキ理由ハ通信關係戰訓第三項中ニ記述シテ付畧ス)

157
③

以上各項ニ依リ現「ビーム」型空中線ヲ有スル電波探信儀ヲ
 裝備スルモノトセバ別ニ「ビーム」空中線背面ニ擴散角相當大
 ナル簡單式「ビーム」空中線又ハ單條空中線ヲ裝備シ對空
 見張用トシ單ニ空中線ノ切換ニ依リ測的用具張用適時轉
 換可能ナル如クセバ碇泊中ノ對空警戒用トシテ尚使用ノ便
 アリ

現裝備ニ号一型電波探信儀ノ實績ニ鑑ミ速ニ改善スベキ
 事項

(1) 水平測的距離ノ延伸及精度向上

溺ルル者ハ莖菜ヲモ 掴ム心理ト兵器ニ對スル認識不足ト依リ
 現用電波探信儀ヲ以テスル水上索敵及測的ニ對シ極メテ
 過度ナル要求ヲ爲シ樹ニ倚リテ魚ヲ求ムル類ノ電探射撃
 ヲ實施スル等ノ事アリシニ鑑ミルモ對水上艦船用電波

探信儀ハ戰術運動ノ余裕ナル距離ニ於テ敵ヲ發見シ
 (三十料以上) 水平線附近ニテ彈着遠近或ハ潛望鏡ノ
 識別可能ナル程度ノ能力及精度ヲ要ス

方向精度 公誤〇五度 最大一〇度ナルヲ要ス

(四) 衝擊波幅ヲ一料以内ニ縮小最小測距能力ヲ向上スルヲ要ス

現兵器ノ衝擊波發生時間ハ計画ハ又〇程度(三料)ナラモ
 實際指示器ニ現ハルル映像幅ハ四料乃至六料ニ至リ
 対潜見張ハ素ヨリ霧中運動用トシテモ利用價値少シ
 北方部隊艦艇取用トシテハ少クトモ一料ヨリ測距可能ナル如ク
 衝擊波發生時間ヲ小ナラシメ尚去力低下セザル様改造
 ヲ要ス

158

(イ) 取扱ヲ簡單ナラシムルヲ要ス

周波數ノ変動ヲ防止シ接断器一個ニテ送受信状態
完備スル如クセザレバ逆探能力向上セル今日却テ所在
曝露ノ不利ヲ招来彼ニ機先ヲ制セラルル虞アリ

(ロ) 送信機及空中線間ノ饋電線ヲ縮メ送信機出力ノ損失
ヲ小ニスルヲ要ス (理由説明省略)

(ホ) 空中線形式ハ現水平型ヲ垂直型ニ改メ水上探信能力ノ
向上ヲ圖ル件ニ関シ研究工夫ノ要アリト認ム

垂直型空中線ハ地上波強ク波浪及射等ニ依リ目標ノ
判別困難ナル弊ハアルモ何レニセヨ対水上艦艇用トシテ其ノ悩ハ
免レザルトコロナルヲ以テコノ困難ヲ克服シテ始メテ彈着觀測
潜望鏡發見可能ナル所望ノ兵器タリ得ベシ

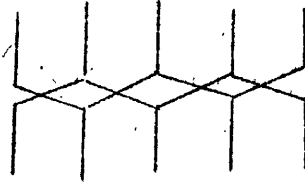
三、電波探知機能力ノ向上及改造ヲ要スト認ムル事項

(1) 電波探知機ノ裝備ハ熟練工ノ手ニ俟ツヲ要ス

横須賀ニ於テ裝備セル第一〇駆逐隊ノ檢知能力ト現存ニ於テハ海軍ニ依リ勿論ニ裝備セル九〇駆逐隊ノ檢知能力トヲ比較スル前者ニ於テハ約ニ倍ノ檢知距離ヲ示セルコト別表ノ如シ

特ニ電探電檢ノ如キ極超短波兵器ハ其ノ裝備法及取扱法ニ依リ著シキ能力ノ差ヲ生ズ斯ル精密兵器ノ裝備ハ其ノ方面ニ熟練者ノ手ニ依リ裝備シ精密ナル實驗ヲ以テ最良ノ状態ニ在ラシムルヲ要ス

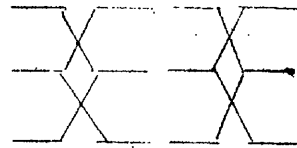
垂直型



(單ナル着想ノ型ナリ)

水平型

(現兵器ノ型)

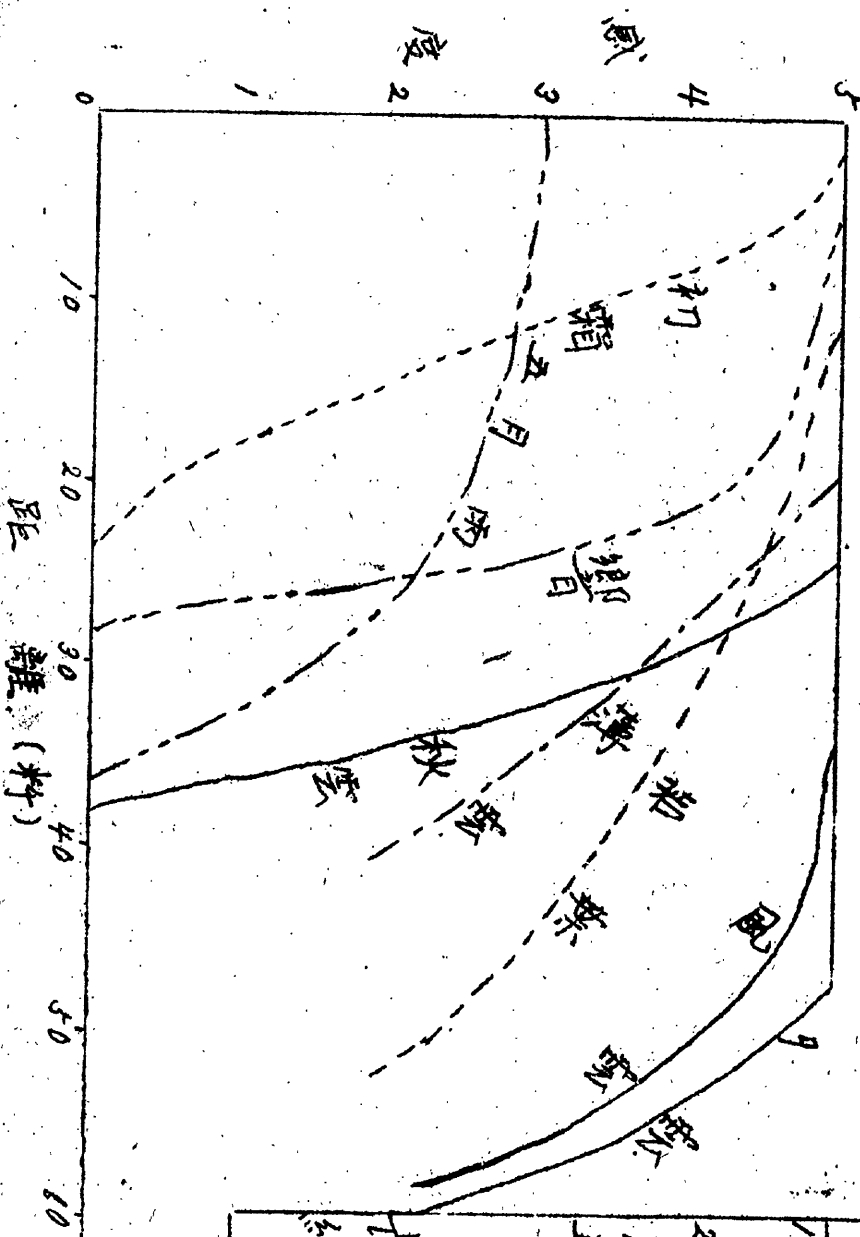


0104 591

別表

水雷部隊駆逐艦電波探知機能力表

目	標	那智電波探信儀
場所	幌筈海峡北方(南方)海面	
日時	七月下旬	



備考	備
10dB (夕雲、夜霧) 横自算ヲ裝備	
21dB (若草、初霜)	
9dB (薄曇)	
五月雨、薄曇	}
幌筈海峡ニシテ、海丸ニ依リ、裝備	
長波、朝雲ニ成	
續不明	

(四) 電波探知機待受ヲ容易ナラシムルヲ要ス

(一) 現兵器使用ノ難矣ハ方向角及周波數ヲ同時ニ搜索ヲ要スルコトナリ(待受空中線ハ單條空中線ナル爲ニ感度ノ低下アリ)容易ニ敵電波ヲ捕捉シ得ズ且四個ノ線輪ヲ交互使用搜索スル爲敵ノ巧妙ナル電探ノ使用ニ對シテハ探知機會極メテ小トナリ現方式ニ於テハ探知能力ヲ發揮稍困難ナリ

(二) 單條空中線ノ形式其他ヲ工夫シ全波型トシ感度ノ向上ヲ圖ルヲ要ス

(三) 四周波數帶ヲ同時並列搜索可能ナル如クスルヲ要ス

四 潜水艦ニ有カナル探知能力ヲ附與シ敵艦艇航空機ノ電探ニ関シ詳細ナル調査ヲ實施シ之ガ逆用法ニ関シ研究訓練ノ要アリ

電波探知機ノ用法上敵使用電波不明ニテハ其ノ價值半減ス
 電波ニ依リテ敵艦種ヲ判明シ得ル程度トナリテ其ノ目的ヲ
 達シ得ルニ至ルニ

五 電波探信儀及同探知機
 夜戰訓練ヲ勵行スルヲ要ス

第三對敵通信關係

一 電波探信儀及同探知機關係員其他味方通信以外ノ電波
 兵器要員ノ編制配屬ニ関シ通信科ニ別ニ一ヶ分隊ヲ置キ
 專任ノ兵科分隊長ヲ配スルヲ要ス

當隊旗艦(阿武隈)ニ於テハ測的分隊長ヲ之ニ兼務セシムルヲ適當
 ト認ム

二 電波探信儀同探知機 被探知警報器 超短波艦上無線

誘導装置、長波、短波、中波、超短波各方位測定機等ノ
 装備ハ無線兵器發達ノ趨勢及將來海戰ノ様相ヨリ必至
 ノ事項ナリ電波ヲ主用スル各種兵器中所謂通信ニ非サルモノ
 教育訓練及直接指揮ニハ之ニ堪能ナル一將校ヲ配スルヲ要シ
 到底通信長一人ニテ能ク掌理シ得ルトコトニ非ズ今日ヨリ制度上
 ノ準備ヲ充分ニシ兵器ノ進歩發達ニ應ジ之ニ活用シ得ルノ素地
 ヲ作りオフト要ス

(四)前(ハ)子関係兵器ノ活用ハ其ノ基礎ヲ主トシテ敵信傍受
 ノ上ニ置カザルベカラズ敵信傍受関係業務ハ前号所述ノ
 分隊長指揮下ニ置クヲ可ト認ム

然テ將來測的ガ電測ヲ統合實施ノ事トナルハ必然ノ形勢
 ナルトコト特ニ阿武隈型ニ於テハ測的的分隊長ヲ以テ兼務セシムルヲ
 今ノトコロ最適ト認ム現在同分隊長ノ配員ナキトコロ右ノ趣旨ニ

依り至急配員シ測的電測敵信傍受ノ任ニ當ラシムルノ要切ナリ
 二艦隊旗艦以外ノ艦船ニ於テモ外信員ヲ配員シ敵信傍受
 ニ當ラシムルヲ要ス

(4) 前項ニ於テ述ベタル如ク電測ノ基礎ハ大部分ガ敵信傍受
 ニ在リ且又艦隊旗艦以外ノ艦船ト雖モ極力敵信ヲ傍受シ
 敵情ヲ詳ニスルハ今後ノ海上戦斗ニ於ケル唯一ノ敵ヲ知ルノ
 方途ナレバナリ然シテ今次作戰ニ於テハ水戦旗艦ニ於テ主トシテ
 晝間敵哨戒機爆撃機ノ電波夜間ハ敵潜水艦電波及北
 方間接交信系電波ニ配員シ敵ノ動靜ヲ判知スルニ極メテ有効
 ナリキ特ニ行動中屢々敵電探電波ヲ探知シ我企圖曝露ノ
 虞アルヤニ見受ケラレタルモ敵信傍受ニ依リ我作戰部隊被奔見
 ニ關スル報告ナキヲ確認シ自信ヲ以テ行動シ遂ニ最後ノ好機ニ
 投ジ成功ノ道ヲ啓開スルヲ得ナリ素ヨリ艦隊旗艦以外ノ

各艦ニ於テハ當面ノ行動ニ關係アル敵信傍受ノミニテ充分
 ニシテ全般的永續的敵情判(謀)知ニ関スルコトハ艦隊旗艦
 又ハ陸上通信隊外傍班ニ依存スベキモノナリ差當リ戦隊旗艦
 八名軍艦五名駆逐艦一ノ二名ノ配員ヲ至當ト認ム

(二)從來北方ニ行動セル艦船ガ鳴神島及熱田島ニ輸送護衛
 或ハ緊急輸送任務ニ従事スルヤ少数ノ電信員ヲ割愛シ
 晝間敵哨戒機夜間敵潜水艦電波ニ配員五ノ通ノ敵情
 通報ト相俟テ敵ノ動靜判知ニ努メ適切ナル航路ノ探定
 進退ノ決定ニ依リ輸送ニ成功シ来レルノ事實ハ軍艦駆逐艦
 ト雖モ敵信傍受ノ有効且必要ナルノ事實ヲ證明シアリ

168

(五) 機関

遠距離作戦ナルト人員收容後長時間高速運轉ヲ要スルノミ
 ナラズ會敵ノ算極メテ大ナリントニ依リ出撃前ヨリ機関ノ
 整備ニ萬全ヲ期シ併セテ燃料經濟ニ極力意ヲ用ヒタリ
 而シテ終始敵爆撃機威力圏内ニ於ケル霧中ノ編隊航行ニ
 シテ中速力以上ノ即時乃至ニ十分待機命令中ナルヲ以テ出撃時
 ヨリ諸管系電路ノ警戒区分乃至戦斗区分ヲ實施シ戦斗
 即應ニ萬遺憾無キヲ期シタリ 燃料經濟上中速力ヘ減速時
 巡航運轉々換ハ速ニ實施スルヲ要ス尚機関整備並ニ保養上
 補助蒸氣元弁ノ整備ハ速ニ實現スルヲ要スルモノト認ム

(四) 其他

(一) 輕巡及驅逐艦最大收容可能員數
今次作戰於テ收容隊各艦ノ收容員數左表ノ如シ

響	薄	朝	秋	風	夕	木	阿武隈	艦名
	雲	雲	雲	雲	雲	曾	一〇二	收容員數
四一八	四七八	四七六	四六三	四七八	四七九	一一八九		記
患者二						要担患者五 陽首者一	要担患者四	事

(2) 状況

(a) 收容員状況

(i) 服装

冬軍服 外套又ハ防寒外套着用、准士官以上軍刀

下士官兵 銃剣化用 (銃若持参セズ)

(ii) 准士官以上各自手提鞆一箇

公用書類等若干外一切物件ヲ携リセズ

(b) 外界状況

(i) 気温 暑カク 寒カク 船内居住好適

(ii) 海上模様

終始手穩ニテ特大な艦動揺等全然無シ

(c) 船内居住並ニ戦斗作業状況

(i) 全部居住甲板以下ニ收容 概不横臥ニ得ル程度

165

今回等簡略服装(武装)の場合	一五〇〇	六〇〇
小銃武装の場合	一二〇〇	五〇〇

状況

氣候特ニ酷暑極寒ナラズ又海上模様大ナル荒天ヲ予期セザル限
 輕巡及驅逐艦ニ於ケル最大收容可能員數左ノ如キト認ム

- (i) 配食、排便等 著シク不便ノ感ハス
- (ii) 艀内居住ノ為 特ニ罹病セシガ如キ状況現出セズ
- (iii) 特ニ戰鬥作業ニ支障ヲ招来セズ
- (iv) 極情況ニ鑑ミ

(別紙其二)

阿武隈國後及若葉初霜長波觸衝顛末

一、概要

北方部隊水雷部隊(水戰司令官指揮)の「号第二期作戰中
 昭和十八年七月二十六日一七四號中航行中北緯四四度一分東
 經一七一度二十五分附近ニ於テ視界約三〇〇乃至二〇〇米ノ濃
 霧中國後(二十三日)以末濃霧ノ多ク當部隊ヨリ分離消息不明
 ノ艦)先ツ阿武隈(陣列ニ番艦)ニ衝突シ之ニ依リテ生ジタル
 陣列ノ混亂ニ依リ一八。七頃陣列ノ後尾占位艦若葉初霜長
 波相次テ觸衝ス
 各艦損傷狀況ハ各艦長司令ヨリ報告ノ通

二、當時霧ノ狀況

最近稀ニ見ル廣域且濃密ナル霧ニシテ七月二十一日ニ。一。出雲
 以末七月三十一日マテ九日間左ノ時間ニ霧ノ濃薄向或ハ薄ラギ

ヲ見タル以外連續霧中帶視界一〇〇米以下ヲ航行ス

二十三日 一二〇〇—一二三〇 (稍薄ラゲ)

二十四日 一一〇〇—一五三〇 (視界三〇〇—一八〇〇米)

二十五日 〇九三〇—一一〇〇 (視界二〇〇〇米)

二十六日 〇二四〇—〇二五五 (視界七料)

一三〇〇—一三五〇 (視界五—二料)

一五〇〇—一七二五 (視界約五—一五料)

其他略

三 國後分離セル狀況

(イ) 國後ハ當部隊補給隊ニ属シ日本丸ヲ護衛艦トシテ出雲以

末陣列、最後尾ニ續行中

(ロ) 分離當時、當部隊航行隊形

第三警戒航行序列

- 後全ク連絡無シ)
- (ハ) 主隊ニテハ二十三日。四三。針路一三。度ニ変針予定ナリシモ濃霧ノ多ク變針時機ヲ延シ居タリシガ。七三。以後國後ノ電諾無キヲ以テ之カ連絡ツクカ或ハ視界好轉シ状況判明スルマデ一八。度針路ヲ續行シ補給隊ノ續航ヲ容易ナラシム。(。七三以後速水十一節)
- (ヘ) 二十三日午後日下(多摩乗艇)ヨリ 國後ノ落伍止ムヲ得ズ日(三十日) AOB突入可能ナル如ク行動スベキ指示ヲ受ケ一五。針路一五。度一六。八針路一。度トナス
- (ト) 國後ハ一六。八ノ變針ヲ承知セズ其ノ儘一五。度十一節ヲ以テ航進セルヲ以テ前記ノ如クニ。三。以後ハ聽音機ニ依ル推進音ヲモ聽カズ完全ニ主隊ト分離スルニ至レリ
- (チ) 主隊ハ其ノ後日下ノ命ニ依リ一八四。針路九。度トナシ一九一。二

四、分離後國後ノ判断及行動

節ニ増速セリユコニ於テ國後ニ對シ一九三。一九。ノ位置針路速カレヲ通報（中波使用愧通中継大湊ヨリ短波放送）シ爾後視界好轉セル際國後行動ノ基準ヲラシム（事實ハ國後ハ本電ヲ受信シ居ラス）

(イ) 針路一五。度ニテ續航シツツアリト認メタルモ二十四。六。視界多少回復セルモ主隊ヲ認メズ爾後又日ハ二十七日ニ延期サルルコトヲ予想シ主隊予定航路上ニ於テ視界良好ナル時合同ノ計畫ヲ以テ種々搜索航路ヲ推定シ主隊ト合同ヲ試ミタルモ果サズ（事實ハ主隊ノ概不後方ヲ行動ス）

(ロ) 二十六日（國後予想ノ五日）一。六。ノ主隊予定位置ニ未リタルモ尚主隊ヲ認メズココニ於テ一旦針路ヲ二一。度ニナシ二十六日一九。三。度ニテ北ルニ二十七日ノ一。六。同待機線中央ニ於テ日

本丸(予定計画)依レハ五日主隊ト解列待機線トナリ。度ニ
 度ニテ往復運動ヲ為シ。六。及八。ニ待機線中央ヲ通ル
 ニ合同ヲ企図セリ

(ハ)右ニ。度ニテ半速(九節)航行中一七四四(反轉)約一時間
 前)左四。度至近距離霧中ニ艦影ヲ発見セリ

五、分離後主隊ノ判断及行動

(イ)國後行動ニ對スル判断

當隊ノ一九三。番電ヲ了解セハ二十日九。度線ニ於テ合同ヲ企
 圖スベク若シ之ヲ了解セサレバ予定待機線ニ到ルナラン而モ何
 レノ場合ニテモ霧中合同ハ至難ナルヲ以テ視界不良ナル時ハ必
 ズヤ當隊予定行動區域ヲ遠ザカリ居ルベシ

(ロ)二十日九。度線ニテ國後ヲ認めザリシヲ以テ同隊ハ予定待機線
 ニ赴キタルモノト判断セリ

(一) 二十七日。三。針路一三五度トナシ一旦敵機ノ哨戒圏ヲ南ニ避

ケ又日(二十七日ニ変更)ニ應ナル如ク同日一九一五針路六五度

トシ二十七日。三。頃予定計画ノ。六。ノ位置ヲ通過シP/F

ヨリ「五日ヲ二十八日或ハ二十九日ニ繰下ケ」ノ指令ニ依リ。三。

針路一八。度トナセリ(前後敵情附近ニ伏在モ疑アリシヲ以テ

之ヲ韜晦スルヲメ)

(事後調査ニ依レハ國後ガ。六。ノ位置ニホリタル時主隊ハ既

ニ之ヲ通過シ南方ノ概ネ。六。哩ノ位置ニ在リ)

(二) 二十七日。四。P/Fノ命ニ依リ針路三。度トナス

本針路ニ於テハ予定待機線ノ南端ヨリ最短巨岸四五哩離

隔シアリ而モ晝間ナルカ故ニ國後ガ之程遠ク運動スルモトモ

思ハズコノ針路ニ於テ會合スベシトハ夢考セザリキ

(ホ) 同日一五。〇。一七。頃予視界極メテ良好(東方ヨリ料其他

十ターニ。料一ナリシヲ以テ高警戒ノ夕夕周圍ヲ見渡スモ國後ヲ発見セス

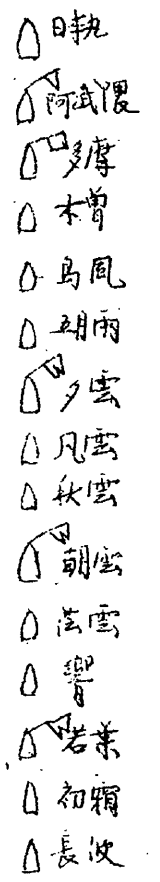
(ハ) 然ルニ一七三。頃ヨリ濃霧未散シ視界極メテ狹塞 三〇〇米一ニ

〇〇米トナリタル時一七四。霧中右七。度約。米ニ突然。航影発見ス

六阿武隈國後衝突時ノ状況

一七二。六。一七五。頃(雷日)日没一七四。六。阿武隈木曾多摩補給終了後濃霧未散視界五。以下ト尤

コノ時ノ隊形



- (一) 霧中浮標曳航中
- (二) 各船ノ巨角約六。一四。米
- (三) 針路三。度連力二節

(四) 一七四。四(視界三。米一。米)阿武隈ノ右七。度二。〇米ニ突然航影

140

ヲ発見セシモ処置スル違ナク同艦ハ阿武隈右舷中部ニ垂直約
八〇度ヲ以テ衝突セリ

(一) 阿武隈ハ之ヲ國後ト直感シ直チニ

「國後阿武隈衝突」ヲ各艦ニ電報ニテ通報スルト共ニ「サイレン」
急鳴シテ警報シ損所輕微航海ニ支障無キヲ以テ其ノ儘日本
丸ニ續行セリ（船尾投光器炎燈）

(二) 國後ハ衝突時約二〇度右ニ傾斜セルモ直ニ復帰寸時ニシテ右
斜後濃霧中ニ姿ヲ没ス

七爾後ノ状況

(一) 後尾續行中ノ多摩見エズ

(二) 阿武隈ニ於テハ國後ハ霧中陣列ノ右側ヲ相離レテ後落シ居ル
ヲ以テ隊列ニ突入スルト無カル可ク後方各艦ハ續行中ト認ム
一七五五頃針路三〇度連カニ節我日本丸ニ續行中ノ各艦

三通報

- (一) 木曾ニ對シテ國後ノ状況知ラセシヲ命ズ。(國後ノ保身ヲ最モ考慮セリ)
- (二) 八一。頃木曾ヨリ「我多摩ノ見失ノ針路三。度速力二節驅逐隊ハ本航後尾ニ續行ノ答」ノ電諾アリ
- (三) 此ノ頃陣列ノ後方ニ於テ甚シキ電諾ノ混乱アリテ何事カ生起ノ兆アリテ狀況ヲ知ラントスルモ電諾通ゼス
- (四) 八一。頃郷音ヨリ「我漂泊中」ノ電諾アリコト時何カ故ニ停止セルヤ疑問ナリシガ次テ若葉初霜融氷ノ報
- (五) 八一。阿武隈日本丸針路三。度速力七節トス(通報)
- (六) 此ノ當時多摩木曾ハ阿武隈ニ續行スルモ驅逐隊續行セス
- (七) 一九二五以後漸次驅逐隊集合續航ニ明朝。八。五若葉初霜ノ集合ヲ了ス

141

八、當時の實情（事後調査）

(1) 各後續船の判断

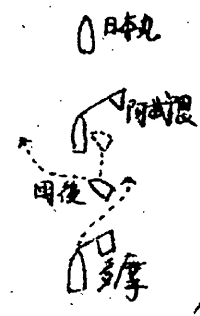
(一) 濃霧中而モ日没後ノ極メテ狭視界（三〇米以内）中合計十五隻ノ長大ナル縦陣列ノ先頭船ニ生起セル不時ノ事故ナリレドモ此等ノ混乱甚シク指揮官ノ指令及相互ノ連絡通報極メテ不如意ニシテ前方ノ情况明確ナラス各船共判断ニ若シミ自船保女ノタメ停止後進ノ止ムナキニ至ル

(二) 國後阿武隈衝突直後阿武隈ヨリ「國後阿武隈衝突」ト通報セルモ阿武隈當務員ノ錯誤ニテ符号ヲ「日本丸阿武隈衝突」ト送話セルタメ後續諸船中ニ事故ヲ過大ニ判断シ先頭二艦ニ相當ノ損傷アリシモト推定シ濃霧中ノ不意ヲ一層拡大セリ（本錯誤ハ中途ヨリ訂正）

(三) 右通報ニ衝突船ヲ加ヘザリシタメ後方諸船ハ何レノ船ノ衝突

ナルヤ不明ニテ回頭航区々トナリタル一因ヲナス

(四) 國後阿武隈衝突直後ノ状況

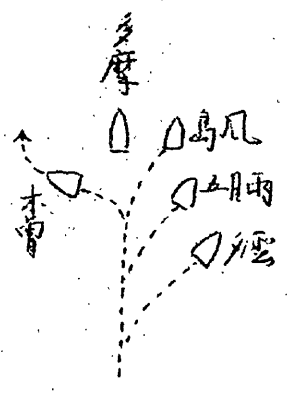


(一) 阿武隈日本丸ニ節直進

(二) 國後ハ衝突後行定メ待タル後阿武隈針路ヲ七〇度ト判断シ前道微速ヲ以テ多摩ノ前方ヲ横切リ陣列ノ左側ニ出ツ

(三) 多摩面航ニテ國後ヲ左ニ見テ阿武隈ノ後尾ニ至ル

(三) 木曾島風五月雨夕雲ノ状況



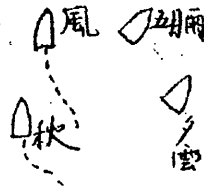
(一) 木曾ハ多摩ニ近接セルヲ以テ取舵轉舵(約六〇度以上)後三〇度ニ節

(二) 島風ハ木曾ノ急轉舵近接ヲ認メ面舵轉舵多摩ノ側方ニ於テ停止

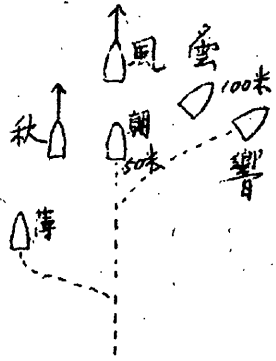
(三) 五月雨夕雲ハ何レモ前航航ト急激ニ近接セルヲ面舵轉舵一時停止(夕雲ハ約一時間停止シテノ連ル)

142

(二) 風雲秋雲ノ状況



(一) 朝雲薄雲響ノ状況



(一) 風雲ハ取舵轉舵 五月雨ノ左側ニテ一時停止セルモ

島風 五月雨ノ行進ヲ起スヲ見テ之ニ續航
夕雲ノ所在ヲ求メ指呼スレドモ所在ヲ確メ得ス五月雨
ノ後ニ入ル

(二) 秋雲ハ風雲ニ續航

(一) 朝雲ハ秋雲ニ續航之ニ倣ヒ停止其ノ右側ニ迄

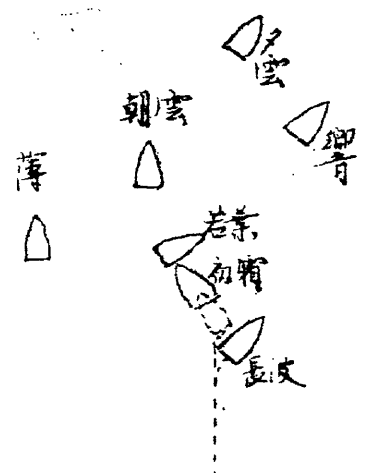
(二) 薄雲ハ取舵轉舵秋雲ノ左斜後ニテ一時停止

(三) 響ハ朝雲ニ追接セルヲ以テ面舵一杯後進

雲ノ右側ニ停止

(四) 風雲秋雲行進ヲ起ス

(一) 若葉初霜長波ノ状況



- (一) 若葉ハ日本丸阿武隈針路ニ。度連力十節ヲ南キ前方諸船ハ大ナル混乱ヲ概不續航中ナリト思ヒ(電語混乱ノ状況航橋ニ報告セシス)航進中前方ヨリノ停止ノ波動自眼ニ及ビ去ヲ得ル面航停止後進ヲ令ス(前續航線中傍中浮標ヲ曳航セリ航尾ヲ見ツツニ。ホニ續航中)
- (二) 若葉停止ノ際サイレン故障電語ノ不達及轉舵ニ依リ航尾灯ガ後方ヨリ見エザル等々其ノ状況初霜ニ伝ハカズ初霜急ニ近接ス
- (三) 初霜ハ前方航探照灯内ニ若葉ニ着煙突ヲ透視シタル時ハ濃霧中ノトトラテ距離既ニ近ク如何トセズベカズ取舵一杯後進一杯ヲ令シタルモ及ハズ衝突
- (四) 長波ハ前進中急激ニ初霜ニ近接面航後進一杯ヲ令ス(後進ヲ令シタルハ則チ船影ヲ認メ之ガ行動不安タルヲ見)コト時初霜後進ニ来リ取舵一杯前進一杯ヲ令シタルモ及ハズ衝突

143

九各艦損傷程度(詳細艦長司令報告ノ通)

(一)阿武隈 右舷中部上甲板小破孔戰鬥航海ニ支障ナシ

(二)國後 自艦首二番ヒーム(上甲板線ヨリ下方セ糧)破損左舷外敵自二番ヒーム至五番ヒーム上甲板線下幅ニ糧小破口任務遂行支障ナシ

(三)長波 飛左舷外敵凹屈小浸水戰鬥航海ニ支障ナシ

(四)若葉 十五番重油タンク中破口最大速力一四節自力回航幌燈停投

(五)初霜 艏ヨリ約二米水線上破損釣合タンク浸水補給隊護衛艇トシテ任務遂行支障ナシ

144

一〇所見

事故惹起ノ原因

一、國後が日本丸ニ對スル續航ヲ失シ爾後合同ノ好機ヲ得ガリシコト

所見

一、今次作戰中天祐ニ依ル霧ハ連續旬日ニ亘リ行動海面ヲ全ク遮蔽セル濃霧ニシテ霧ニ對シテハ相當慣熟セル北方部隊諸艦ニ於テモ未ダ經驗セルコト無キ難航ニシテ而モ國後ハ陣列ノ最後尾ニアリテ確實ナル編隊航行至難ナル狀況ニアリタリ

二、今次實績ニ鑑ミ連絡無ク關係位置不明ナル艦ノ霧中合同ハ不可能ニ近シ故ニ今後

ニ本作戰が企圖被匿ヲ絶對要件トセシタメ主隊行動變更ニ從ヒ國後合同ニ関スル電報指令ノ方位測定電波等ヲ弁シ得サル狀況ナリシコト

霧中航行中連絡ヲ失シタル艦ハ特ニ指令無キ限り合同ヲ強行セズ相當豫定行動線ヲ離隔シ自信ナキ限り合同ヲ企圖セズ好機ヲ待ツヲ可トス

今後共北方方面霧中作戰ニ於テハ今次ノ如キ狀態生起ヲ豫想セラルルヲ以テ左ノ諸点ニ留意且訓練ノ要アルモノト認ム

(1) 常ニ超短波電話連絡ヲ確保スルコト

(2) 電話感度ノ増減ニ依リ主隊トノ關係位置ヲ檢知スルコト

NY

三直接原因ハ事故生起時機
 ガ視界最狭ナル最悪
 時機ニシテ且之ニ加フルニ
 (1)電話通信混乱通信費消
 時大一部通信ニ錯誤アリ

(1)電話連絡絶エタル時ハ他ノ待受
 波長ニ注意シ絶対受信漏無キ
 ヲ期スルコト
 (2)分離後合同ヲ要スル場合情況之
 ヲ許ス時機及海面ニ於テハ約三〇
 分間隔位ニ電話連絡ヲ試ミル
 ヲ可トス

(1)斯ル狀況ニ即應スルタメ編隊
 霧中航行中ハ裝備電話機
 數ニ應ジ應急通信既備(指揮
 通信専用電波各艦連絡電波
 〔余カアルハ三波〕ヲ濶練シ置キ
 今次ノ如キ混乱錯誤ヲ生起

(四) 衝突艦が衝突後前進力ヲ以テ陣列ヲ横切ル行動ヲナセルコト

セシメザルコト 肝要ナリ

(一) 之ガヲメ各駆逐艦ニハ超短波電話ニ機ヲ必要トス

(二) 他艦ノ通信ニ注意シ其ノ状況ヲ艦橋ニ逐一報告セシメ善處即應ノ参考トナスコト 肝要ナリ

(三) 通信混乱時ハ特ニ通信軍紀ヲ嚴守スルヲ要ス

編隊列中ノ艦ト衝突セル時ハ一般ニ轉舵前進ニ依ルカ或ハ後進力ヲ以テ衝突側ニ一旦離隔スル如ク運動スルヲ可ク

M/61

(1) 事故生起艦及後續艦ノ諸通
報不充分ナルトアリ

(2) 回避方向ノ統制ニ欠グルトコトアリ

(1) 霧中事故ヲ生起セル場合僚艦
(後續艦)ニ対スル通報最肝要
ナリ

(2) 通報要素

(1) 事故速報(衝突舷 危險物方向等)

(2) 轉舵方向 針路速力

(3) 其ノ後ノ狀況

(4) 他艦ノ保安ヲ考慮シ參考事項

(3) 通信兵器サイレン 諸灯火等ノ整備

ニ努メ緊急即應ニ遺憾ナカラ

シムルヲ要ス

(1) 今回ノ如キ事故生起ノ場合ハ

(例) 各艦共不安ノ余リ自己保身ニ焦慮シ前續艦ヨリ順次ニ行進ヲ停止シ其ノ波動ヲ陣列ノ後尾ニ及シ遂ニ若葉初霜ヲシテ進退各マシメタルコト

混乱防止ノタメ指揮官ニ於テ出来得ル限リ回避方向ヲ統制シ

- (1) 方向変換
- (2) 齊動
- (3) 緊急ノ場合ハ右(左)ニ避ケヨリ等指令スルヲ可ト認ム

(一) 事實ヲ静感スルバ今回ノ場合島風以後ガ其ノ儘直進スルカ或ハ木曾ガ大轉舵ヲナサズ島風以後ガ之ニ續航セバ事無キヲ得タルニ非ズヤト認ム

(二) 即霧中航行ニ於テハ常ニ後續艦ハ

144

等、誘因重複経緯トナリ隊
形ノ混乱ハ波動的ニ陣列後
方ニ及ビ若業初霜長波等、
陣列未端艦ニ於テハ如何トモ
スベカラザル情況ニ陥リタリ

前續艦ニ續航ヲ建前トシ前續
艦ハ前方ニ事故發生セル場合
ハ自己保安エノミ捉ハレヨク急ニ
停止スルト無ク航續艦誘導ノ
氣持ヲ安全界ヲ回避シタル後
基準針路ニ復スル如ク運動スルト
肝要ナリ

(三) 右ハ言フベクシテ實施極メテ困難
ナル場合多シト認ムルモ前方占位
艦ガ斯ノ如キ方法ニテ善處セガ
ル以上今回ノ如キ情況ニ於テ隊形
ノ混乱防止ハ望ミ得ズ

以上ノ如ク事後冷静ニ考 究セバ 幾多ノ諸因アリ以テ
 他日ノ銘鑑トシテ 覆轍ヲ 戒慎スベキモノ多クアリト雖モ
 前人未經驗ノ大編隊長期 連續霧中航行中ノ一事故ニシテ
 各艦亮ヲ其ノ最善ヲ盡シ 禍ヲ最少ニ止メ人員ニ死傷ナク
 不撓不屈爾後ノ難関ヲ突破シ遂ニ見事作戦目的ヲ完
 遂シ得タルハ天祐神助ノ一顯現ナリト認ム

(終)

184 2810

附圖
主隊(阿武隈)渡國後概略行動圖

